

# 変見自在

(へんけんじざい)

高山正之  
TAKAYAMA MASAYUKI

## 校長先生獄中記

橋下徹が大阪市長だったころ、学校教育の活性化を図るとかで校長先生を一般から公募した。

教職は結構、過酷だ。行儀も知らない児童生徒どもを体罰なしで躾け、なおお勉強もさせる。

おまけにもっと身勝手な父兄にも耐えてトラブルなしで25年間務め上げたらやっとならぬ。

それが最後の難関で、学校の中で一番我儘な校長を相手に、円形脱毛症になりながら忍従の3年を経て校長に昇格できる。それほどポストなのだ。

そこに教育が何かも知らないよそ者が来てびよんと座るといふ。

はしゃいで生徒を川に突き落としたりした。生徒が怒ると、何だその態度はと本気で水に沈めて周りがびっくりして止めに入ったりもした。

教員室でも同じ。教頭が諭すと怒鳴りつけて衆人中、土下座をさせた。

PTAも呆れ、新聞各紙も「橋下が選んだろくでもない校長」を報じた。北角はふてくされて出ていった。

そして7年。巽中の卒業生が新聞を開いて吃驚した。あの非常識校長の写真が麗々しく載っていた。

記事に曰く。国軍と民主化勢力が深刻に対立するミャンマーで「日本人のフリジャーナリスト北角某が国軍に逮捕、拘束された」とあった。

追いかけて望月衣塑子やラサール石井ら色付きの人たちが「政府は北角を救出せよ」と会見もやった。

実際、この報道の少し後には民主派勢力のシャン族の大物ら4人が絞首刑に処された。

あのダメ校長がミャンマー民主化の国際的なヒーローに変身し、今は十三階段の下に立たされているような騒ぎぶりなのだ。

昔を知る人たちは大いに戸惑った。幸いというか、北角は全くの小物だったようで処刑どころか裁判もなしで3週間留め置かれたあと国外追放処分とされた。

ただ日本では「ミャンマーの民主化に身を挺した大物」扱いのまま。成田では帰朝会見までやった。

それだけじゃない。新年早々から朝日新聞に「北角裕樹のミャンマー獄中記」のタイトルで連載が始まった。本多勝一並みの扱いだ。

その触れ込みの割に中身は薄い。例えば看守長らの「厳重な監視下で2週間に一度、日本大使と直に電話できた」という。

いかにも大物風だが、拘束は3週間。電話は一度だけだったかも。

他の囚人と「こっそり話した」とあるが、北角は

「ビルマ語はだめ」だから一体何を話したのか。それに「看守が履物を差し入れてくれ、暑さを凌ぐ水浴びも自由」だからちっとも緊張感はない。

視点も「市民」対「国軍」の構図のみ。国軍がこの国の主のビルマ人で、市民とは英植民地時代に山を下りたシャン、カレンなど山岳民族という

内情も知らないようだ。両者の戦いは日本軍が英軍を叩き出したときに始まり、1980年代にはヤン

ゴンのすぐ北まで山岳民族側が押し寄せていた。ビルマ側が押し返すと英

国がスーチーを送り込んで山岳民族側は「民主派勢力」と名を変えた。コソボ

と同じ民族闘争だ。どっちが悪いとか、よそ者が決める問題じゃない。

因みに朝日は北角の過去を報じていたが、ヒーローには邪魔と思ったか、ウエブから削除されていた。そこまでごまかす心根がコワイ。